

(別紙様式3)

令和2年 3月31日

研究開発完了報告書

文部科学省初等中等教育局長 殿

住所	三重県津市広明町13番地
管理機関名	三重県教育委員会
代表者名	教育長 廣田 恵子

令和元年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業に係る研究開発完了報告書を、下記により提出します。

記

1 事業の実施期間

令和元年 5月30日(契約締結日)～ 令和2年 3月31日

2 指定校名・類型

学校名	三重県立飯南高等学校
学校長名	土方 清裕
類型	地域魅力化型

3 研究開発名

「チームいいなん」の挑戦 ～未来を切り拓く“地域に根ざした人材”育成～

4 研究開発概要

本事業では、地域が抱えている諸課題の解決や持続可能な社会の実現に向け、地域を学びの場とした地域課題解決型のキャリア教育の実践を通じて、自ら考え挑戦したり、多様な価値観を持つ人々と対話・協働したりしながら、地域への愛着を持って、地域に貢献し、地域の未来を切り拓くことのできる、地域に根ざした人材を育成することを目的とし、必要な資質・能力を育むためのカリキュラム開発に取り組んでいく。

<地域に根ざした人材に必要な資質・能力>

- ①地域に飛び出し、地域住民や職業人等、様々な立場の人々、世代を越えた人々の思いや考えを聴き取り共感しながら、コミュニケーションできる力【対話力】
- ②地域の伝統文化や産業、魅力等について調べたり体験したりすることを通じて、課題や改善点を把握・整理する力【追究力】
- ③自らの技術を磨き、他者とかわり合いながら、仮説を立て、地域課題の解決に向けた

取組や活動を創造する力【創造力】

④地域課題を解決するための具体的な提案や活動等を効果的に発信する力【発信力】

<カリキュラム開発の方向性>

- ①総合学科の柱に位置付けている3科目、「産業社会と人間（1年次必修科目）」、「キャリアデザイン（2年次学校設定科目）」、「いいなんゼミ（3年次総合的な学習の時間）」を再構築し、3年間の学びの連動の強化を図る。
- ②4系列（郷土・環境、介護福祉、コンピュータ、総合進学）の特色を活かした地域貢献のための学習活動の充実を図る。
- ③各教科・科目で地域の題材やデータを扱うなど教科横断的な学習を実施し、日常的な学びと地域・社会との連動を図る。

5 教育課程の特例の活用の有無
無し

6 管理機関の取組・支援実績

(1) 実施日程

業務項目	実施日程											
	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
学校長の懇談等、事業の進捗管理	14日 適宜	28日 適宜	4日 22日	適宜	12日 適宜	適宜	21日 28日 適宜	17日 26日 適宜	30日	5日 19日 25日 適宜	適宜	
管理機関の実施等による取組	9日 地域みらいPBL会議			23日 24日	SBP交流 フェア		総合教育会 議での発表		24日 26日 27日	地域創造サミット		
コンソーシアム（会合）												

(2) 実績の説明

ア) 管理機関における事業の管理方法

- ・教育政策課の担当者と学校長の懇談を月平均1回以上行い、取組状況を共有するとともに、取組を推進していくうえでの諸課題の解決に向けた相談を行った。
- ・教育政策課の担当者が、生徒の活動発表や外部講師によるワークショップ等、各学期に複数回の学習参観を行い、成果や改善点等を学校長や研究主任等にフィードバックした。
- ・取組の進捗状況等を把握し、助言や支援を行うため、教頭や研究主任から教育政策課の担当者に適宜報告をもらうようにした。
- ・飯南高校活性化協議会を各学期に1回開催し、取組状況の報告を踏まえた協議を行った。
*三重県では、平成29年度から1学年3学級以下の高校に学校ごとの協議会を設置し、生徒にとって魅力ある学校づくりに向けた活性化プランを作成し、地域と一体となった取組を推進している。飯南高校の場合、地元行政関係者、地域の代表者、連携中学校長等で構成しており、コンソーシアム構成員と重複している者が多い。

イ) 管理機関における主体的な取組について

- ・4～5月（国との契約前）における取組を推進するため、予算の上乗せを行った。
- ・地域課題解決型キャリア教育の取組を推進している高校の生徒・教員が一堂に集い、情報共有や意見交換を行う「地域みらいPBL会議」を開催した。鈴木寛氏（東京大学教

授、慶應義塾大学教授、前文部科学大臣補佐官)による基調講演のほか、同氏と生徒によるパネルディスカッションを行い、PBLへの理解を深めた。

- ・地域課題解決型キャリア教育の取組を推進している高校の生徒を対象に、一般社団法人未来の大人応援プロジェクト「全国高校生SBP交流フェア実行委員会」主催のSBP交流フェアに参加する企画を実施した。SBP活動に取り組んでいる全国の高校生との交流を深めることで、主体的に地域課題に取り組む意欲を高める機会とした。
- ・県内外の高校生を対象に「2019 高校生地域創造サミット」を開催し、地域のことを主体的に考え行動する意欲や、地域とともに課題解決に取り組む姿勢を育む機会とした。
- ・三重県総合教育会議の議題の1つに地域課題解決型キャリア教育を取り上げていただき、飯南高校を含む3校の生徒が、知事や教育委員に向け、学習状況や成果の報告を行った。
- ・コンソーシアムにおいては、フィールドワーク先の提案や地域の魅力的な大人の発掘・紹介をはじめ、実施に係る生徒輸送バスの運行、フィールドワーク先としての受入れ等を行った。また、介護福祉系列内の授業で進めている「ふるさと看板プロジェクト」については、コンソーシアム構成員の提案からプロジェクトが立ち上がった。その他、美術部の緑茶ラテアートの販売・活動先の提供等、生徒の活動の幅を広げための支援活動を行った。なお、コンソーシアムの構成及び主な活動状況等は、以下のとおりである。

【コンソーシアムの構成員】 (地域人材育成コンソーシアム・いいなん)

機関名	機関の代表者名
三重県立飯南高等学校	土方 清裕 (校長)
松阪市企画振興部	野呂 隆生 (地域振興担当理事)
松阪市飯南地域振興局	榊原 典子 (局長)
松阪市飯高地域振興局	廣本 知律 (局長)
松阪市教育委員会	中田 雅喜 (教育長)
松阪市西部教育事務所	中林 穰太 (所長)
松阪市立飯南中学校	山下 隆久 (校長)
松阪市立飯南高等学校	森井 義和 (校長)
松阪市粥見住民協議会	中野 孝是 (会長代理)
株式会社三ツ知製作所	堀出 一 (業務課長)
有限会社深緑茶房	松本 浩 (茶長)
叶林業合名会社	堀内 楓子
有限会社上野屋	佐々木 幸太郎 (代表取締役)
NPO法人 i sierra (アイシエラ)	太田 覚 (理事長)
三重大学地域イノベーション学研究科	西村 訓弘 (副学長・教授)
三重県教育委員会事務局教育政策課	上村 和弘 (課長)
三重県教育委員会事務局教育政策課	西 達夫 (主幹)

【主な活動日程・活動内容】

活動日程	活動内容
令和元年6月5日	コンソーシアムを組織
令和元年7月4日 (第1回会合)	<ul style="list-style-type: none"> ・研究開発実施計画を共有するとともに、飯南高校における取組(具体的な教育課程の内容)について協議及び地域の学びの場を提案 ・学校や生徒のニーズに応じた支援内容・支援体制について協議(含 地域と生徒の関わり方)

令和元年 7月 22日	飯南高校と共に未来を拓く地域活性化セミナーの開催 (講師：大正大学教授・浦崎太郎氏、参加者 99名)
令和元年 10月 23、24日	「産業社会と人間」における第2回フィールドワークでの活動 先の紹介、受入れ
令和元年 11月 28日 (第2回会合)	・取組の進捗状況を共有するとともに、生徒の主体的な活動に 向けた地域・地元行政としての支援のあり方について協議
令和元年 12月 17日	第2回フィールドワーク発表会(1年生)の参観 *都合のつけられた委員のみ
令和2年 1月 22～23日	島根県立津和野高等学校を視察 ・地域や行政との連携及び地域との協働による特色ある取組、 町営英語塾について
令和2年 2月 5日	いいなんゼミ発表会(3年生)の参観 *都合のつけられた委員のみ
令和2年 2月 25日	課題解決学習発表会(1年生)の参観 *都合のつけられた委員のみ
令和2年 3月 18日 (第3回会合) *新型コロナウイルス感染 拡大防止の一環で 3/2 に 中止を決定	・1年間の取組の成果と課題、次年度の方向性について協議 ・コンソーシアムによる、地域での学びの場の創出や学校の取 組の深化に向けた支援について協議 (代替措置) 校長とコンソーシアム構成員が必要に応じて個別に協議

ウ) 高等学校と地域の協働による取組に関する協定文書等の締結状況について

令和元年6月に、地域の活性化と高校の魅力化を目的として、松阪市、学校法人享栄学園鈴鹿大学・鈴鹿大学短期大学部、株式会社鈴りん探偵舎と本校の4者で「飯南いいな～協定」を締結した。協定を活用し、松阪市 CIR や鈴鹿大学の留学生とともに国際交流を行い、外国の他地域と比較する活動を行った。また、道の駅コラボプロジェクトが一層生徒主体の活動となるよう、鈴りん探偵舎とともに取組を進めている。

エ) 事業終了後の自走を見据えた取組について

官学が協働し、地域を学びの場とした活動を推進していく。具体的には、令和3年度からコンソーシアムを母体とした飯南高校学校運営協議会を設置し、飯南・飯高地域の松阪市立小中学校とで「小中高連携型コミュニティ・スクール」としていく予定である。また、松阪市の次期総合計画に飯南高校の魅力化について記述いただく方向で調整中である。

7 研究開発の実績

(1) 実施日程

業務項目	実施日程											
	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
「産業社会と人間」 における地域探究学 習(1年次)	3回					4回	2回	2回	3回	3回		
「キャリアデザイン」 における地元や地域を 知る活動およびブレい いなんゼミ(2年次)				3回	2回			2回	3回	2回	1回 中止	
「いいなんゼミ」 における地域課題解 決にむけた探究活動 (3年次)	<ul style="list-style-type: none"> ・4～12月の毎週火曜日1時限分、金曜日2時限分で、それぞれのゼミに分かれて探究活動を行った。 ・7月に中間報告、12月に最終報告を行った。最終報告で内容が評価されて学年代表となった生徒は、2月の「いいなんゼミ発表会」で発表。 											

「社会科学入門」 での地域課題学習 (2年次学校設定科目)	3回	4回	2回		3回	3回	4回	2回	3回	3回	
授業改善のための教 員研修			1回					1回		1回	

(2) 実績の説明

ア) 研究開発の内容や地域課題研究の内容について

本研究では、①総合学科の柱に位置付けている3科目の再構築、②4系列の特色を活かした地域貢献のための学習活動の充実、③探究的な学びを進める授業改善、の3つを柱として取り組んだ。

①における「産業社会と人間」は、1年次総合学科必履修科目かつ3年間の学びの核となる科目であるため、令和元年度は重点的に内容改善を行った。1学期は「地域を知る」、2学期は「地域への理解を掘り下げる」、3学期は「地域課題の解決へ向けた提案づくりや魅力を伝える」といった地域を学びの場とした活動(1・2学期はフィールドワークも実施)を含む内容へとリニューアルした。また、魅力マップづくり、活動報告発表会、成果報告会を行うなど、活動内容や考えを生徒間・外部の方と共有する取組も位置付けた。

「キャリアデザイン」(2年次学校設定科目)においては、企業見学やインターンシップのほか、商工会議所と連携して「高校生と地元企業との交流会」を開催し、生徒が地元企業の仕事内容ややりがい等について知る機会とした。

「いいなんゼミ」(3年次総合的な学習の時間)においては、地域を題材として課題研究に取り組む生徒を1つのゼミ内で協働させながら、各個人の課題や内容に応じた探究活動を展開した。代表的な取組として、過疎化の進行に伴う空き家の増加に注目し、「空き家片付けプロジェクト」を立ち上げて空き家バンクの登録数の増加を目指した取組や、フォトコンテストを開催して地域の魅力を発信する企画を実行した取組があげられる。

②については、令和2年度以降の各系列における地域と協働した学習が、令和元年度の「産業社会と人間」で地域を題材に学んだ生徒にとって連続性のあるものとなるよう、学習内容・活動を模索する年度に位置づけた。介護福祉系列では地元企業との「ふるさと看板プロジェクト」、コンピュータ系列では学校のブランディングの一環として「地域の産業や文化を取り入れたキャラクターづくり」、総合進学系列では高大連携授業において「地域課題をデータに基づき考える学び」など、地域を軸にした学びを実施することができた。

③については、ユマニテク短期大学学長・鈴木建生氏を2回招へいし、研修を実施した。1回目(7月)は対話的な授業改善やめあての提示、振り返りの言語化等について、2回目(12月)は模範授業を通じて対話的な学びについて学ぶ機会とした。また2月には「いいなんゼミ」における探究活動やフィールドワークでの学びをより豊かなものにするため、産業能率大学准教授・皆川雅樹氏による「問いづくりワークショップ」を生徒向けと教員向けに2回開催した。

イ) 地域との協働による探究的な学びを実現する学習内容の教育課程内における位置付け

「産業社会と人間」、「キャリアデザイン」、「いいなんゼミ」は、総合学科の柱に位置付けている3科目であり、この連動を強化することで3年間を通じた地域課題解決型のキャリア教育の充実を想定した。特に、令和元年度は「産業社会と人間」をリニューアルし、学年全体をとおして地域を学びの場とするためにフィールドワークを実施した。また、「産業社会と人間」と、2年次以降における各系列の特色を生かした学びが、連続性のあるも

のとなるよう構想し、地域貢献のための学習活動の充実につなげることを意識した。

ウ) 地域との協働による探究的な学びを取り入れた各科目等における学習を相互に関連させ、教科等横断的な学習とする取組について

令和元年度は、総合進学系列の学校設定科目「社会科学入門」において、松阪市の行政や地域医療、仮想通貨を取り上げ、現代社会や政治・経済、保健などと連動した学びとなった。また、プレゼンテーションソフトを活用した発表は、情報での学びを深化・発展させるものとなった。

エ) 地域との協働による探究的な学びを実現するためのカリキュラム・マネジメントの推進体制

校内に「地域協働カリキュラム推進委員会」を設置し、3度の委員会を開催して令和元年度の授業計画・推進、評価、改善提案を行った。当初、月2回程度の開催を予定していたが、新たな取組である「産業社会と人間」におけるフィールドワークの内容素案を作成するため、地域協働カリキュラム推進委員会に所属する4名を中心とした「作業部会」を新たに設置し、月2回程度の継続的な協議を行った。また、作業部会を中心に、フィールドワーク先の地域の方々との連絡調整を密にし、関係性の構築に努めた。

オ) 学校全体の研究開発体制について（教師の役割、それを支援する体制について）

初の取組であったフィールドワークについては、該当学年団以外の教員も引率や事前・事後指導を行い、学校全体で取り組む活動へと意識づけた。企業との連携については進路指導部を中心として対応し、「いいなんゼミ」等における地域との連携は各担当者で分担した。また、授業改善に関する研修会については、本事業研究担当者が受け持ち、管理職と共同して人選・連絡を行った。

カ) カリキュラム開発等専門家及び地域協働学習実施支援員の学校内における位置づけについて

【カリキュラム開発等専門家】

- ・江森真矢子 氏（一般社団法人まなびと代表理事）：月1回程度来校
- ・浅野吉英 氏（まちげいKNOT代表、豊岡短期大学非常勤講師）：月2回程度来校

お二人には、教育課程の具体的な内容検討のみならず、実施に係る支援もいただいた。活動状況は、以下のとおりである。

活動日程	活動内容
平成31年4月16日 (江森、浅野)	本校へ初出勤 *管理機関にて予算措置 ・令和元年度事業における活動計画について協議 ・「産業社会と人間」の活動内容について協議
平成31年4月19日 (江森、浅野)	第1回フィールドワークの内容について協議 *管理機関にて予算措置
令和元年5月14日 (江森、浅野)	第1回フィールドワーク *管理機関にて予算措置 ・「福信院」、「大谷嘉兵衛資料館」へ同行 ・フィールドワーク後の振り返り等につて内容協議
令和元年5月28日 (江森、浅野)	フィールドワークの「魅力マップ」の作成に関わる生徒への指導 *管理機関にて予算措置
令和元年6月3日 (江森、浅野)	第1回地域協働カリキュラム推進委員会に出席 ・本事業の方向性や年間計画、今後の「産業社会と人間」のカリキュラム作りについて協議
令和元年7月11日 (浅野)	第2回フィールドワーク、答志島サステイナブルキャンプ、ふるさと看板プロジェクトの内容について協議
令和元年7月12日 (浅野)	第2回地域協働カリキュラム推進委員会に出席 ・次年度の「産業社会と人間」、「キャリアデザイン」の骨子および第2回フィールドワークについて協議

令和元年8月26、27日 (浅野)	答志島サステイナブルキャンプに、メインファシリテーターとして参加
令和元年10月16日 (浅野)	第3回地域協働カリキュラム推進委員会に出席 ・夏季休業期間までの活動報告および第2回フィールドワークの内容について協議
令和元年10月17日 (浅野)	第2回フィールドワークの事前協議 「ボランティア基礎」におけるふるさと看板プロジェクトで三ツ知製作所へ同行・助言
令和元年10月23、24日 (浅野)	第2回フィールドワークにおいて「道の駅飯高駅」へ同行 (生徒の様子等を把握)
令和元年11月14日 (浅野)	「ボランティア基礎」におけるふるさと看板プロジェクトで三ツ知製作所へ同行(生徒の様子等を踏まえた助言)
令和元年12月19日 (浅野)	「ボランティア基礎」におけるふるさと看板プロジェクトで三ツ知製作所へ同行(生徒の様子等を踏まえた助言)
令和元年12月26日 (江森)	本校との連携について飯高地域振興局長、地域おこし協力隊と協議
令和元年12月27日 (江森)	松阪市役所において、高校教育と行政の関わり方、地域おこし協力隊の位置づけ等について、協議・助言
令和2年1月16日 (浅野)	「ボランティア基礎」におけるふるさと看板プロジェクトで三ツ知製作所へ同行(生徒の様子等を踏まえた助言)
令和2年1月21日 (浅野)	第4回地域協働カリキュラム推進委員会に出席 ・3学期の課題解決学習、次年度の計画について協議
令和2年2月5日 (浅野)	いいなんゼミ発表会に出席 ・指導、助言
令和2年2月26日 (江森、浅野)	「ボランティア基礎」におけるふるさと看板プロジェクトの今後の進め方について、指導・助言 第5回地域協働カリキュラム推進委員会に出席 ・今年度の振り返り、次年度の計画等の協議・助言
令和2年2月27日 (江森)	第13回作業部会に出席 ・ベンチマーキングの意見共有 ・学校ホームページの内容について協議

【地域協働学習実施支援員】

・横山陽子 氏(松阪市地域おこし協力隊) : 原則週1日本校にて勤務

令和元年10月から、松阪市が地域おこし協力隊として初めて雇用し、学校と地域のつなぎ役として活動いただく体制が構築された。主な活動状況は、以下のとおりである。

日程	内容
令和元年10月9日	管理職と打合せ、学校の概要説明等
令和元年10月16日	第3回地域協働カリキュラム推進委員会に出席 ・夏季休業期間までの活動報告および第2回フィールドワークの内容について協議
令和元年10月23日	第2回フィールドワークにおいて「有間野地域」へ同行
令和元年10月24日	地域との協働による高等学校教育改革推進事業全国サミットに出席
令和元年10月26日	飯南町「深野棚田まつり」で中高生の店への運営協力
令和元年10月27日	道の駅飯高駅での中高生の店「道の駅コラボプロジェクト」への協力
令和元年11月17日	「飯南ふれあいまつり」でのボランティア部、グリーン部、応援団の活動への協力
令和元年12月17日	第2回フィールドワーク発表会に出席
令和2年1月21日	美術部「緑茶ラテアート活動」への協力
令和2年2月5日	いいなんゼミ発表会に出席

キ) 学校長の下で、研究開発の進捗管理を行い、定期的な確認や成果の検証・評価等を通じ、計画・方法を改善していく仕組みについて

学期ごとにアンケートを実施し、その数値や活動の際の生徒および教員の振り返りをふまえて、地域協働カリキュラム推進委員会や作業部会において改善の検討を行ってきた。

ク) カリキュラム開発に対するコンソーシアムにおける取組について

「産業社会と人間」でのフィールドワークの実施に係る、地域の施設提供や地域の大人の紹介、生徒輸送バスの運行、フィールドワーク先としての受入れ等を行った。また、「ふるさと看板プロジェクト」への協働、「いいなんぜミ発表会」における連携中学校生徒の参観に係る調整、生徒活動の場の提供等、生徒の活動の幅を広げための支援活動を行った。

ケ) 運営指導委員会等、取組に対する指導助言等に関する専門家からの支援について

【運営指導委員会の構成員】

氏名	所属・職	備考
長田 徹	文部科学省初等中等教育局教育課程教科調査官 国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター統括研究官	学校教育に専門的知識を有する者
西村 訓弘	三重大学副学長（社会連携担当） 三重大学地域イノベーション学研究科教授	学識経験者
浦崎 太郎	大正大学地域創生学部教授	学識経験者
吉仲 繁樹	三重県商工会連合会専務理事	産業界
橋本 純	三重県漁業士 三重県海水養魚協議会長	産業界
西出 覚	三重県大台町企画課係長	行政機関
岸川 政之	(一財) 未来の大人応援プロジェクト 代表	コーディネーター
土方 清裕	三重県立飯南高等学校長	校長代表
安田 恵理	三重県立鳥羽高等学校教諭	教員代表

【活動日程・活動内容】

活動日程	活動内容
第1回会合（令和元年5月24日）	・高校生が地域課題に取り組むことの意義、地域課題解決型キャリア教育を推進するうえで大切なことについて協議
第2回会合（令和元年11月18日）	・半年間の取組を共有し、取組の改善・充実に向けて必要な事柄および目指すべき姿について協議
第3回会合（令和2年3月18日） *新型コロナウイルス感染拡大防止の一環で3/2に中止を決定	・1年間の取組を共有し、成果や課題、次年度に向けた方向性について協議（含 飯南高校に焦点をあてた協議）

コ) 類型毎の趣旨に応じた取組について

「産業社会と人間」において2回のフィールドワークを実施し、地域に学びの場を移した。これにより、必然的に地域の大人との交流機会が増加したことに加え、実際に地域の方々と対話しながら実状を探ることでリアルな課題や魅力の発見につながった。また、対話にはコミュニケーションスキルの獲得が必要であることを生徒自身が実感できた。そして、それらの活動を通じて「地域課題の自分ごと化」が少しずつ醸成されてきている。

教員としても、地域からの温かい支援をいただき、地域と協働することで、生徒に必要な力を一層身に付けさせることができるのではないかという実感を得ることができた。

サ) 成果の普及方法・実績について

「産業社会と人間」で行った第1回フィールドワークのまとめは、校内および学校開放デーにおいて展示を行った。これに対するアンケートでは400件以上のコメントが寄せられ、地

域での活動が校外外に大きな反響を与えることができると生徒・教員ともに実感することができた。第2回フィールドワークの発表会（令和元年12月17日）では、フィールドワーク当日に関わっていただいた地域の方々10名ほどの参加を得て、活動内容の還流報告を行った。そして、1年間のまとめとして行った課題解決学習発表会（令和2年2月25日）では、その活動を通じて課題だと感じたことを他地域と比較しながら考えたり、魅力をさらに発信したりするなどフィールドワークでの学びを深化させた。

本校における3年間のキャリア教育（3年次生は「地域課題解決型キャリア教育」の実践については初年度）の総決算に位置付けている「いいなんゼミ発表会」（令和2年2月5日）は、本校生徒および連携中学校生徒のほか、コンソーシアムの関係者や地域住民、県内高校教員等も約50名来場いただけ、総勢約360名となった。参観された方々からは、「調べ・まとめで終わることなく、それをふまえた追究・試行・検証まで取り組まれていたことに価値がある」、「より深く、現場へ入って実践していることが伝わってきた」といった、生徒の発表内容を高く評価する感想が寄せられたほか、「できるだけ多くの地元の方々や他校の先生方に見てもらえるような工夫が必要である」、「飯南高校の生徒を入学させたいと思う大学が増えるよう、大学にも発表を知ってもらおうとよい」等のご意見をいただいた。

また、ここに挙げた活動およびそれ以外の生徒活動（部活動・サークル活動含む）については、数社の新聞報道や行政チャンネル「アイウエーブまつさか」など、各メディアによってのべ60回程度（2月末現在）取り上げられた。

8 目標の進捗状況、成果、評価

飯南高校は連携型中高一貫教育を実施しているが、令和元年度1年次生の80%は飯南・飯高地域外から通学している。「産業社会と人間」において、5月に実施した第1回フィールドワーク後には「ここに福信院があって住職さんがとても優しい」など、地域を話題にする姿が校内で見られるようになり、「地域を知る」という点で効果的であった。また、活動のまとめで作成した「魅力マップ」は生徒同士の共有に留めず、学校開放デーで掲示したところ、地域の方々から「地域の事をよく見て回って勉強された事がしっかり書いてあってすばらしい」など、取組を評価するアンケートコメントを400件以上いただいた。加えて、生徒が地域の寺院を訪ねるなど、地域への関心が高まり、地域を学びの場とする土壌づくりとなった。

10月に実施した第2回フィールドワークでは、飯南・飯高両地域振興局等、コンソーシアムの行政機関の支援を得ることで、事前学習や最適な地域の大人との顔つなぎ、バスの運行など、円滑に実施できた。同じくコンソーシアムの三ツ知製作所や深緑茶房、上野屋等の企業への訪問・体験活動も行い、地元企業を知り、地域への理解を掘り下げることができた。

一連のフィールドワークについて、地域人材育成コンソーシアムの第2回会合では、「生徒にとって、質問することは難しいと感じたが、学びたい姿勢をすごく感じた」という意見のほか、「企業側も生徒と関わって初めて学べることが多い」等の意見も出され、企業側としても良い学びになったようだ。この活動をとおして、生徒・教員ともに、地域に出ていくことへの不安が解消され、地域を学びの場とすることの意義を実感することができた。

本事業の成果目標として、「対話力・追究力・創造力・発信力の4つの能力がすべて身に付いたと考える生徒の割合」を85%に設定した。7月および12月にアンケートを実施した結果、7月29.3%→12月37.3%であった。3年間での目標値には遠く及ばない数値となったが、各項目で見ると、対話力58.2%→73.7%、追究力59.5%→61.3%、創造力65.8%→64.5%、発

信力 41.3%→60.0%と創造力を除き当初より上昇しており、上述したような地域を学びの場とした活動を進めたことで、力が身に付いたと生徒自身が実感したことは大きな成果である。また、「産業社会と人間」で地域を学びの場にした活動に取り組んだ生徒たちが、2年次・3年次に各教科・系列の授業で地域のことを学ぶと、「これまでの生徒とは違った感触が得られるのではないか」、「地域のことを学ぶ意味を感覚として理解できるのではないか」という見方が教員間で広がってきている。3年間の学びを展開するための基盤が構築されてきたのではないかと考える。

4系列の学習活動については、令和元年度は地域との協働による学びの授業形態を模索する段階であったが、総合進学系列の「社会科学入門」や「国際社会と日本」では地域を軸にした学びの活動を取り入れた。大学教員や留学生との対話、松阪市の資料・データを活用した学習および地元特産品を紹介する活動等は、単に社会的知識だけでなく数学的読解力や外国語力、コミュニケーションスキルも必要とされ、結果的に教科横断的な要素を含んだ学習となり、生徒の学びは以前より豊かなものになった。また、コンピュータ系列「マーケティング」では本校をブランディングするために、地域の特産品や文化・伝統等を取り入れたイメージキャラクターの制作を行った。地域のことを学びながら創造力や発信力を高めることにつながった。

授業改善については、ユマニテク短期大学学長鈴木建生氏に2度来校いただいたこともあり、授業での対話的な活動が行われ始めている。学習の振り返りに取り組み始めた教科・系列もある。また、3年次「いいなんゼミ」にも関係する問いづくりについては、産業能率大学准教授皆川雅樹氏を招へいした研修会を通じて学んだ「対話の必要性」や「being、目的を持った授業づくり」に取り組んでいく必要があることについて、共通理解を図ったところである。

一方、成果目標で掲げた「松阪市及びその周辺地域出身の就職希望者のうち、松阪市内及びその周辺地域の事業所等に就職した割合」と「松阪市及びその周辺地域出身の就職希望者のうち、飯南・飯高地域の事業所等に就職した生徒の人数」については、それぞれ75.8%、7名であり、2017年度(79.2%、7名)、2018年度(72.3%、4名)と比べて平年並みであった。令和元年度2年次生については、8月に地域へのセルフインターンシップ、12月には初めて「高校生と地元企業との交流会」を実施し、地元企業との対話の場を設けた。特に後者では自由記述にもかかわらず8割の生徒が積極的に感想を記入するなど、予想以上の反応が生徒にあったため、就職先の選択への好影響があるのではないかと感じている。

<添付資料> 目標設定シート

9 次年度以降の課題及び改善点

1年次に「産業社会と人間」において地域を知る、地域への理解を掘り下げることとおして飯南飯高地域を学びの場とした活動を行ったが、「将来的に松阪市に住みたいと考える生徒の割合」や「将来的に飯南・飯高地域に住みたいと考える生徒の人数」という指標は、7月から12月にかけて前者は55.1%→47.2%、後者は15人→10人と減少した。これは、2年次生の65.8%、3年次生の77.8%に比べてかなり低い数値となった。活動当初から地域の「課題を見つける」や「解決へ向けた提案をする」に重点を置きすぎた結果、どうしても生徒が地域にマイナスイメージを持ったり難しいと感じてしまったりする部分が多く見られた。こ

の点は、地域の良さや魅力を見つけたり発信したりとプラスイメージが持てる取組を念頭に置きながら、より良くしようと考えることが結果的に地域の課題解決につながり、教科を越えた深い学びになっていくという方向性を持ちながら次年度は進めていきたい。

2年次「キャリアデザイン」については、授業日程と先方の予定との調整がうまくとれず、本気の大人との対話は実施できなかった（3月に実施予定していた会は中止）。年間計画を令和元年度中に構想し、令和2年度は1年次の「産業社会と人間」で取り組んだ地域を学びの場とした活動を基盤に、地域の仕事や生活に焦点を当てた学習を構築していきたい。そのため、フィールドワークで協力いただいた企業とのつながりをもとに、地元企業を中心としたインターンシップを8月中に行う予定である。またこの活動を通じて、飯南・飯高地域での就職先を考える際の一助になればと考えている。

さらに3年次「いいなんゼミ」の探究活動においては地域をテーマにした課題研究に取り組む生徒の増加を図り、より一層地域と協働しながら生徒の育成を進めていきたい。

4系列の学習活動については、令和元年度は模索の段階ではあったが、地域を素材とした学びを展開することができた。しかし、本事業計画時からの人事異動により、当初予定していた活動が進まなかった部分もあった。教員が入れ替わっても計画している学習活動が展開できるよう、学校組織としてカリキュラム・デザインを構築していく必要がある。

また、授業改善については、講師を招へいした研修会の実施を通じ、教員の意識・意欲の向上は見られたものの、確実なグループワークスキルの修得には至っていない。令和2年度は校内授業研修会の開催やグループワークでのルール作りの整備が必要である。

【担当者】

担当課	教育政策課	TEL	059-224-2951
氏名	西 達夫	FAX	059-224-2319
職名	主幹	e-mail	kyosei@pref.mie.lg.jp